

はじめに

革新的技術緊急展開事業について

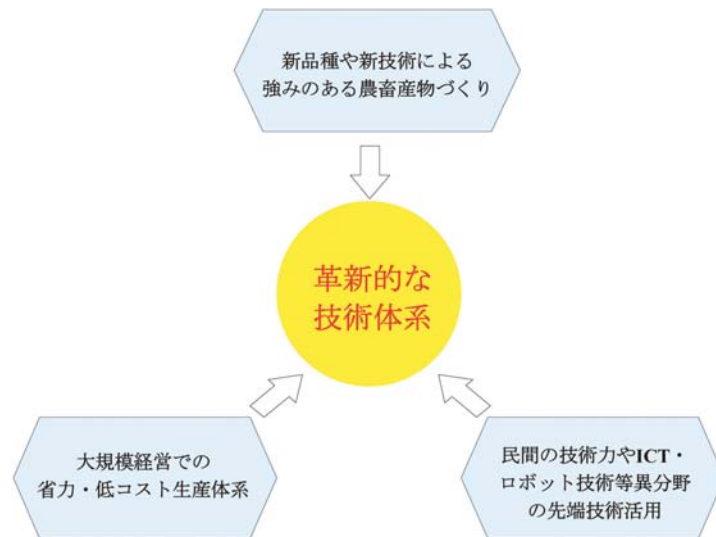
「攻めの農林水産業」の実現、あるいは、消費者などのニーズに応えるため、2014年度補正予算で革新的技術緊急展開事業が実施されました。この事業は、革新的な技術体系を確立するための実証研究、あるいは、民間活力を生かした技術開発などの取り組みをすすめるものです。すなわち、新品種や新技術による強みのある農畜産物づくり、大規模経営での省力・低コスト生産体系の確立、民間の技術力やICT(Information and Communication Technology)・ロボット技術など異分野の先端技術などを活用した実証研究の実施で従来の限界を打破する生産技術体系を確立し、また、民間活力を用いて革新的な技術を早期に実用化するための取り組みを支援する事業です。

九州沖縄農業研究センターも2014～2015年度の2カ年にわたり研究代表機関として、①北部九州における稲麦大豆多収品種と省力栽培技術を基軸とする大規模水田高度輪作体系の実証、②暖地での原料用かんしょと加工用露地野菜の大規模機械化生産体系の確立、③飼料生産組織やTMRセンターなどが連携した地域分業化大規模肉用牛繁殖経営の実証、④

サトウキビの安定多収栽培技術の実証と高バイオマス量サトウキビの生産性評価という九州沖縄地域として重要な4課題を実施しました(九州沖縄農業研究センターニュース No.48参照)。本事業は関係機関や生産者など多くの方の協力を得ながら行われ、また、多くの有用な成果も得られました。ここに関係者の皆様に深く御礼申し上げます。

本号では、これら4課題の革新的技術緊急展開事業の成果を紹介いたします。残念ながら、紙面に限りがありますので詳細に記載することができませんが、本事業では技術マニュアルなど関連成果を多数公表しています。更に詳しく知りたい方は、公表済みの技術マニュアルを参照していただいたり、あるいは、当センターまでお問い合わせいただき、本事業での成果を活用していただければ幸いです。

なお、本号で紹介する成果は、農林水産省の予算措置により農研機構生物系特定産業技術研究支援センター(生研センター)が実施した「攻めの農林水産業の実現に向けた革新的技術緊急展開事業」によるものです。



九州沖縄農業研究センターが代表機関として実施した課題

- ①北部九州における稲麦大豆多収品種と省力栽培技術を基軸とする大規模水田高度輪作体系の実証
【北部九州低コスト水田輪作体系実証グループ】
- ②暖地での原料用かんしょと加工用露地野菜の大規模機械化生産体系の確立
【かんしょ露地野菜生産技術体系研究コンソーシアム】
- ③飼料生産組織やTMRセンターなどが連携した地域分業化大規模肉用牛繁殖経営の実証
【九州大規模肉用牛繁殖体系実証グループ】
- ④サトウキビの安定多収栽培技術の実証と高バイオマス量サトウキビの生産性評価
【サトウキビ安定・多収グループ】